



曹洞(禪)宗
常勝院

住所 千一七八一〇〇六五

東京都練馬区西大泉五一六―三六

電話番号 〇三三三六七一三八八五

FAX 〇三三三六七一〇八五七



衆生無辺誓願度
煩惱無尽誓願断
法門無量誓願学
仏道無上誓願成

曹洞(禪)宗

常勝院

「道元禅師と曹洞宗」

曹洞宗は、道元禅師が開祖です。道元禅師（一二〇〇年～一二五三年）は、鎌倉時代初期の禅僧で、十三歳で出家なされ、比叡山で天台宗を学ばれました。その後、栄西禅師に師事し、一二二三年（貞応二年）、宋に入り、天童山の如浄禅師に学び、一二二七年（嘉祿三年）曹洞禅を伝えました。その後、越前（福井県）に永平寺を建て、門弟を養成し、坐禅三昧にふけりました。曹洞宗の修行法とは、「只官打坐」（日常性を捨て、ただひたすらに打坐することにおいて、悟りのきっかけ「機」をつかんでいく修行）が中心です。また、教学においては、道元禅師の御著書である「正法眼蔵」は、日本の仏教哲学の最高を示すものであると言われております。常勝院では、これらを踏まえ心の真実の姿を見つめ、現代社会でどうあるべきかを日々探究し、安らぎのある理想的な社会を築くことを切望いたしております。



常勝院では、どなたでも気軽にお立ち寄り頂ける開かれた寺づくりを行っております。

二〇〇四年には、現在の様な、葬儀や坐禅は基より、各種イベント、会議、カルチャースクール、学習教室などの多目的ホールを兼ね備え、より空間的にも広がりをもった寺づくりを目指しております。



2004年 新館完成予定図